

交流の拠点となる 仙崎地区グランドデザイン 基本構想



平成 26 年 9 月

仙崎地区グランドデザイン
基本構想策定委員会

目 次

1	はじめに	1
2	長門市の現状と課題	2
3	仙崎地区の現状と課題等	3
4	コンセプト	5
5	「直売所・ウォーターフロント・まちなみ」整備プラン	6
6	個別プロジェクトの提案	9
	(1) 直売所整備プラン	9
	(2) ウォーターフロント整備プラン	16
	(3) まちなみ整備プラン	19
7	個別プロジェクト実現への取組	22
8	策定の経緯	23
9	整備スケジュール	23
	仙崎地区グランドデザイン基本構想策定委員会 委員名簿	24
10	資料編	25

1 はじめに

(1) 仙崎地区グランドデザイン基本構想の策定趣旨

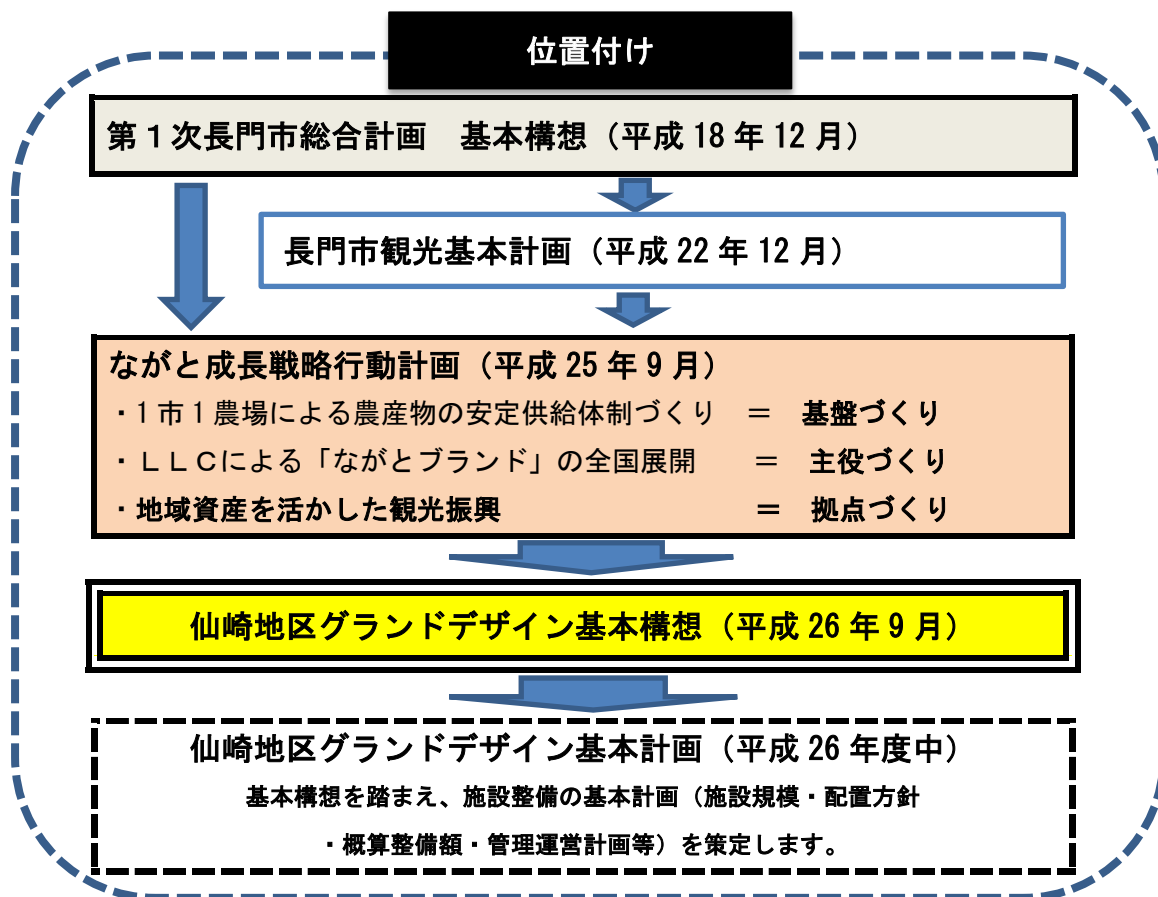
市では、喫緊の課題である若者の流出と人口減少に歯止めをかけ、農林水産業の後継者育成などを進める必要があることから、第1次産業を中心に所得の向上と雇用の創出を図る「ながと成長戦略行動計画」を平成25年9月に策定し、18の具体的な取組を進めることとしています。

仙崎地区グランドデザイン基本構想策定委員会（以下「策定委員会」という。）は、市全域を活性化する成長戦略の施策として、中長期的な視点に立ち、人が集まるポテンシャルを秘める「仙崎地区」に新たな振興の道筋をつけるため、仙崎地区グランドデザイン基本構想（以下「基本構想」という。）について話し合いました。

(2) 基本構想の位置付けと役割

○ 基本構想の位置付け

この基本構想は、第1次長門市総合計画を最上位計画とし、関係する計画との整合性を図りながら、仙崎地区の活性化に向けた方策を掲げます。



○ 基本構想の役割

この基本構想は、地域と方向性を共有し、共に取り組んでいくための“指針”として活用されることを想定しています。

市におかれては、今後、この基本構想を念頭に置いて基本計画の策定に取り組まれるよう期待します。

2 長門市の現状と課題

【現状】

長門市は、山口県の西北部に位置し、人口 37,000 人余りの小規模のまちで、水産と観光の町として発展してきました。

昭和 30 年（1955 年）を境に人口減少に転じ、近年は若年層の人口減少が著しく過疎化が進み、主要産業における後継者不足や廃業、また、圏域の経済規模の縮小があいまって、漁業及びサービス業では、産業別生産額がこの 5 年で 2 割減少しています。（平成 17 年と平成 22 年との比較）

また、人口問題研究所の将来推計人口では、平成 52 年には 22,000 人余と、現在の人口から 40 パーセント余りも減少し、今年 5 月には、日本創成会議が示す「消滅可能性都市」にも指摘されました。

この状態が推移すれば、長門市のまち、そのものの存続が危ぶまれます。

数値から見た現状

- ・人口減少（毎年 550 人の人口減少）
- ・高齢化（2010 年 34.6%）
- ・農業の経営戸数の減少（過去 5 年：21%減少）
- ・漁業の経営体数の減少（過去 5 年：14%減少）
- ・農業、漁業従事者の高齢化（平均年齢 70 歳）

今後の見通し

- ・将来推計人口における人口減少
（2040 年 22,084 人）
- ・高齢化の加速
（2040 年の高齢化率 45.7%）
- ・消滅可能性都市
（2040 年 20-39 歳女性の減少率 62.7%）

※ 資料編 P25、26 参照

【課題】

長門市全域への「市外、県外からの交流人口の拡大と外貨の獲得」「長門の魅力拡大と域内消費」の取組をさらに進めていくことが喫緊の課題であり、これらを喚起する核となる拠点施設の整備が必要です。

また、山陰道の整備計画が進められ、今以上のアクセス手段の向上が見込まれることから、市全域で滞留性を持たせる取組も必要です。

3 仙崎地区の現状と課題等

【現状】

仙崎地区は、明治初期における近代捕鯨の発祥の地、第2次世界大戦終戦後の大陸から40万人余の引揚地、童謡詩人金子みすゞさんや作詞家大津あきらさんの生誕の地、景勝地「海上アルプス青海島」を有する地であり、「仙崎」の魅力は広く県内外に知られ、市の観光拠点でもあります。

また、日本海の海の幸を提供する県内第3の水揚げを誇る仙崎漁港をかかえ、市の物流の拠点でもあります。

しかし、・・・

- 仙崎漁港の水揚げ高は、近年、漁業者の高齢化とともに、不漁や燃油高による就労意欲の減退により、大きく減少しています。
- 水産加工業、特にかまぼこ類のねり製品は、原料となるすり身の高騰、かまぼこ需要の変化などから、生産量は伸び悩んでいます。
- 金子みすゞ記念館には、平成15年の開館以来毎年約8万人超の入館者があります。市では、これまで、みすゞ通り・仙崎駅の改修、みすゞ燦参 SUN 事業のモザイク壁画の設置、JA 仙崎支所等空き店舗活用、看板・散策マップ制作などに取り組みましたが、具体的に大きな成果をあげるまでには至っていません。

※ 資料編 P27、28 参照

【課題】

仙崎市場の拡張・再編の効果と新しいまちづくりの効果を一体化し、面として再開発する必要があります。

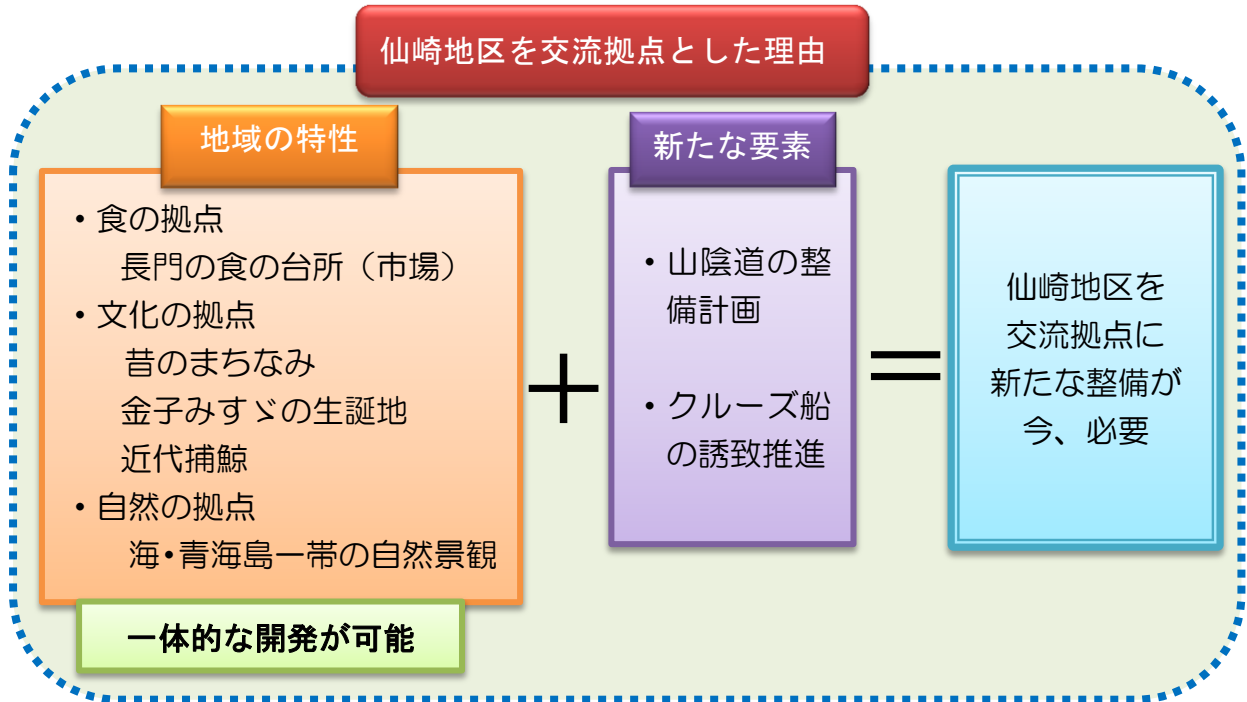
魅力ある仙崎地区を拠点に県内外の観光客が仙崎での時間を過ごすとともに、市内の湯本温泉、俵山温泉など他の観光地に繋ぐ仕組みづくりも、合わせて必要です。

また、山陰道の基本計画路線（三隅・長門間）と仙崎地区とを繋ぐアクセス道の整備も必要です。

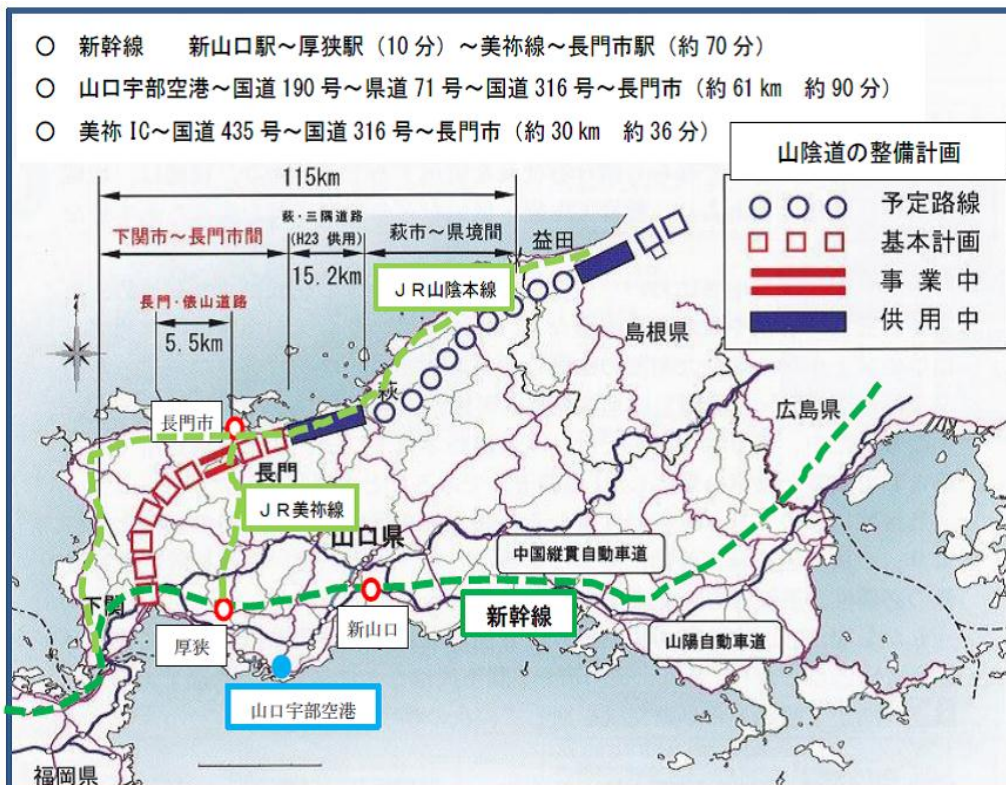
地元市民もこの閉塞感からの脱却にむけて、交流拠点の整備は、「待ったなし」「今、やるしかない」との気持ちで一致しています。

【仙崎地区を交流拠点に】

長門市の中では、食の台所である魚市場、昔のまちなみと金子みすゞ記念館、そして、北長門海岸国定公園の景勝地、これらを有する「仙崎地区」が、県内外の観光客の交流拠点として最も可能性を有しています。



長門までのアクセスと山陰道の整備計画



4 コンセプト

基本構想策定に当たって、全体の方向性を示すコンセプトを定めます。

「風 こだまするまち 仙崎」

「風」とは、

- 人や自然に対するやさしさにふれることができる金子みすゞさんの詩
(文化の風)
- 鯨の犠牲のもとに自分たちの「生」があることの感謝の思いを示す鯨墓、
位牌、過去帳等の史跡と代々続く鯨法会・鯨回向 **(生活・風習の風)**
- 海外からの引揚者に温かい食事と寝床を提供した仙崎の人々の情 **(心の
風)**
- 200種にも及ぶ多品種の新鮮な水産物とその加工品 **(味覚の風)**

など

このコンセプトは、人・自然に対するやさしさを基本に、様々な「風」を感じ、その風が響きあう風土を、住民とともに共有してもらうことで、仙崎の良さを堪能いただく、さらには、市内他の風土の響きも感じてもらうことで、人々が交流し、さらに交流が“こだま”し拡がることで、仙崎地区を核に市内全域の活性化を目指そうとするものです。



5 「直売所・ウォーターフロント・まちなみ」整備プラン

【整備プラン】

仙崎地区の地域資源がもつ魅力を最大限に引き出し、面として開発し、滞在時間を伸ばすため、そして、市内の他の観光地や温泉へ波及させるため、必要な整備として、次の三つの整備プランを提案します。

なお、この三つの整備プランは、一体的な開発が望まれます。

(1) 直売所

駐車場、トイレ等の休憩機能と情報発信機能を持つとともに、長門のおいしい新鮮な魚や水産加工品、農産物を食してもらい、買ってもらう、また、地元の人も利用する、交流の拠点施設として、長門の物産を揃えた『**直売所の整備**』

(2) ウォーターフロント

仙崎地区の美しい海に親しみ、青海島の遊覧船等と連携しながら市場とレジャー客が一体的に賑わう、また、海洋産業等への経済効果も創出する『**ウォーターフロントの整備**』

(3) まちなみ

仙崎地区の金子みすゞさんの詩に描かれている自然や、やさしさあふれる風土、そして、大正・昭和前期の風情を残すまちなみ、これら多くの地域資源を体感してもらうため、趣のあるまちなみに再生し、足を運んでいただける『**まちなみの整備**』

【整備プランに期待する効果】

山陰道の整備も計画されており、交流人口の拡大、外貨の獲得、地産地消の推進及び海洋産業の活性化が期待できます。

「仙崎から市内各地へ」 この交流拠点では、情報発信による市内各観光地への誘導を行うことによって、滞在時間の増、宿泊客の増が期待できます。

市民による「仙崎地区グランドデザイン基本構想」の策定

この基本構想のコンセプト「風 こだまするまち 仙崎」を基本にして、仙崎地区を交流拠点と位置付け、ここ仙崎から青海島、湯本、俵山、三隅、日置、油谷へと長門市全域に交流人口を広めていく取組を進めます。



仙崎地区の主要プロジェクト 全体イメージ



6 個別プロジェクトの提案

(1) 直売所整備プラン

ア 整備の目的

(ア) 観光産業等と連携した交流人口の拡大

地元漁港で水揚げされた水産物や地元農産物を扱う核となる施設が、長門市には存在せず、「道の駅」も市内にはありません。

仙崎地区には観光客等にお金を落としてもらうところが少なく、また、市内の他の観光地にも立ち寄りず素通りされることも多いのが現状です。

こうしたことから、地元の農林水産物や加工品等の購入、地元の新鮮な食材を使った料理の提供、市内外の観光情報の一元的な発信など、これらの機能をもつ中核施設を整備することで、交流人口の拡大と市内各地への誘導を目指します。

(イ) 地元の人々の積極的活用

地元の人が積極的に活用し、親しんでもらえる施設を基本に、仙崎地区に限らず、子供から高齢者までの長門市民が、集い、笑い、楽しみ、喜ぶ、活力あふれる空間を最重点にした施設整備を目指します。

(ウ) 地域特産品のブランド力の向上

長門市には、次のような様々な特産品があります。

水産物	ブランド7魚種（ケンサキイカ、イワシ類、マアジ、イサキ、サザエ、アワビ、ダルマ） キジハタ、養殖トラフグ など
水産加工品	かまぼこ、ちくわ、干物 など
農産物	白オクラ、長門ゆずきち、田屋ナス、いちご、すいか はなっこりー、栽培方法にこだわったお米 など
畜産物	長州どり、長州黒かしわ、長州地どり、長州ながと和牛 など

新鮮で地域性の高いこれら特産品ですが、一方で、食材のおいしさ、新鮮さが消費者まで届かず、どこに行けば手に入るのかわからないという声も聞かれます。

そこで、長門産の特産品を広く商品化することはもちろん、特産品等を活用した新たな商品開発を進め、美味しく求めやすく食べやすい産品が提供できる体制を目指します。

また、自然栽培（完全無農薬・無化学肥料の米、野菜、果樹等）、有機農産物、エコやまぐち農産物等の生産を拡大し、商品販売を目指します。

(エ) 農林水産業の活性化

農林水産物を核とした直売所を整備し、積極的に第1次産業従事者に利活用してもらうことで、生産意欲の拡大と所得向上に繋げ、地域農林水産業の活性化を目指します。

(オ) 実証実験店舗の成果

農産物は「まるごと長門『旬』市場」、水産物は「海幸仙崎」において、それぞれ実証実験店舗での販売を行っています。

季節ごとの旬の農水産物の販売や新商品の試験販売などによる売れ筋商品、対面販売による消費者が求める商品の把握など、マーケットニーズの調査をし、店舗における品揃えが少ないなど実証実験の改善課題等を施設整備及び運営に生かすことを目指します。

イ 整備の概要

ながと成長戦略行動計画では、「『ながとブランド』の大都市圏展開」を目標に、取組の一つとして「地元直売所の整備」を掲げ、そこでは、次の内容が示されています。

- ・JAや漁協、生産者、加工業者、さらには、大津緑洋高校も含めた総がかり体制で地元産品（農林水産物）直売施設を、仙崎地区に整備します。
- ・ながと物産合同会社（LLC）のアンテナショップとして、地元長門市や近隣市町、近県の住民に高級食材を提供し、その評価をいただくことによって、大都市圏展開の参考とします。
- ・直売による農家、漁家の所得向上に取り組めます。

策定委員会の意見では、観光客はもとより、「地元で愛される直売所」「地元の人が集まる所」としての直売所を望む声が多く、施設整備の基本を「地域密着型の直売所」とします。

また、この直売所は、「道の駅」機能（24時間利用可能な、駐車場・トイレ・情報発信機能）を有した施設とします。

導入機能	導入施設等	整備配置方針
休憩機能	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数に応じた便器数の確保 明るく、開放感・清潔感のあるもの 災害時に使用できるもの バリアフリー 24時間利用可能
	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 施設に近い場所に身障者用スペースを設置 雨天時に、濡れない配慮 駐車場から施設までのバリアフリー イベント開催時は、漁協スペースを借用 既存駐車場のリニューアル 施設利用者の交通安全対策 売上げに見合う駐車スペースの確保 24時間利用可能
	休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> ゆったり感のある休憩所の確保
情報発信機能	情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報の集約と発信機能が充実した施設 *道路情報及び近隣の「道の駅」情報 *近隣地域までを含めた観光案内情報 *緊急医療情報 24時間利用可能電話の設置（停電時も利用可能）
	観光案内所	<ul style="list-style-type: none"> 観光コンベンション協会事務所の設置 当所を拠点にしたまち歩きに繋がるもの
地域連携機能	農林水産物の販売	<ul style="list-style-type: none"> 市内農林水産物・加工品の販売 早朝（朝6時）からの営業 宅配サービス機能をもつ施設
	レストラン	<ul style="list-style-type: none"> 魚、野菜メインのバイキング料理等の提供 「ながと」らしさのあるフードコートを設置 宅配サービスとの連動 ブランド魚「ケンサキイカ」等のメニュー化 直売所で購入した商品の調理サービス 直接販売できない商品の加工提供
体験交流機能	体験交流施設	<ul style="list-style-type: none"> タッチプール、魚のつかみ取り体験、かまぼこ・ちくわづくり体験コーナーの設置 鯨文化を学習、体感できるコーナーの設置
	プレイ施設	<ul style="list-style-type: none"> 幼児向け施設（ボールプール、小さな滑り台など）の整備

	水族館	<ul style="list-style-type: none"> ・地元特定魚種の水族館の整備 (イカ・メイボ・タツノオトシゴ・金太郎・やはず・キジハタ・キス・サザエ・アワビ等) ・施設運営における漁師、漁協、水産研究センター、水産大学、大津緑洋高校、事業者等の協力支援 ・水産研究センターの機能の一部移転
	温泉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民と観光客が交流できる温泉施設の整備
コミュニ ティ 機能	出張所・公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・住民サービス機能を持った公共施設の整備 ・公民館、憩いの家等としての整備
	屋外ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニコンサート（郷土芸能、みすゞの童謡など）を觀賞する施設の整備 (既存ステージ：音響が悪く、雨天時の利用不可)
防災拠点 機能	防災機能施設	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の一時避難所施設の整備 ・防災情報発信機能を有する施設の整備 ・備蓄機能を有する物資供給拠点施設の整備
交通拠 点機 能	バス ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外へのアクセスの基点となるバス（市内客対象・観光客対象）ステーションの整備 ・バスと乗用車の分別（別ライン）
	仙崎地区 巡回車の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内への回遊（巡回車の運行） (例：観光基地－王子山－瀬戸・みすゞのお墓－さわやか海岸－仙崎駅－観光基地のコース)
	電気自動車の 充電設備等	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車の充電設備の整備（移設） ・超小型モビリティの運行
	通地区等に 向けた渡船運行	<ul style="list-style-type: none"> ・通地区、紫津浦への渡船運行
そ の 他	冷凍・加工施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「冷凍→加工→直売」可能な施設の整備
	太陽光発電施設	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ（省エネ、創エネ、蓄エネ）対策施設の整備
	ゆるキャラ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるキャラの作成

エ 整備・管理運営の手法

この直売所は、行動計画では、長門の産品や情報を一元的に集約する仕組みを通して、多くの人に活用してもらい、農林水産業の振興はもとより、長門市産業全体の活性化を追求する施設との位置付けです。

直売所内は、長門市を凝縮したイメージを形成とし、山、海、里山の自然ゾーン、三隅、日置、油谷の地域ゾーンなど、市内地域の特色、風土をイメージできる空間を形成し、そこでの産品販売により、誘発効果（では、その地域がどんなところか行ってみたい。特産品を食してみたい。）を生むことを提案します。

このため、広く民間事業者と提携し、管理運営に係る検討を進めるとともに、整備については、早期オープンを目指し進められることを望みます。

オ 活性化の方策

- ・市内の観光地、観光施設、商工会議所、商工会、ルネッサながとなどとの連絡調整を徹底し、直売所に来れば長門のイベント、観光情報等が全て分かるシステムを構築します。
- ・農林水産業の生産者や加工業者と広く提携し、新しい商品づくりを押し進めるとともに、加工品PRの場を作ります。
- ・季節ごとのイベントを定期的で開催し、地元の人や観光客が気軽に参加でき、楽しんでもらえる行事を企画するとともに、情報発信を徹底します。

直売所プラン イメージ図

県道から見たイメージ



海側から見たイメージ



デッキテラスのイメージ



上空から見たイメージ



配置イメージ図



(2) ウォーターフロント整備プラン

ア 整備の目的

直売所と連携した交流人口の拡大

海水浴やマリンレジャー、魚釣りなど、海で遊び楽しむ施設へのニーズは、高いものがあります。

直売所周辺を仙崎地区における集合場所的な地域として位置付け、新しい機能としてウォーターフロントを整備します。

直売所に来られた方に、直売所に続く海と魚に親しむ施設を整備することで、滞在時間の延長と交流人口の拡大を目指します。

また、海洋産業等の需要拡大に繋げることを目指します。

イ 整備の概要

直売所周辺における、青海島遊覧船などと融合させた親水機能をもつ施設、陸上交通と海上交通との結節点となる施設、レジャー施設などの整備とともに、仙崎北側及び仙崎西側（さわやか海岸など）の海岸線を含め、まち全体でのウォーターフロント整備とします。

導入機能	導入施設等	整備配置方針
親水機能	ベイサイドデッキ	・ウッドデッキによる買い物空間・休息空間の整備
ランドマーク機能	ランドマーク施設	・仙崎を象徴し、直売所やウォーターフロントの目印（捕鯨の見張り塔など）となるものの設置
海の駅機能	ターミナル施設	・クルーズ船寄港時に必要な渡船発着機能の整備 ・他の海辺の観光施設、萩市に行く航路の整備 ・バス路線の拠点施設と連動した海上交通との結節
	旧魚市場跡地の利用	・ウォーターフロント整備プランの次の拠点として、仙崎海岸全体の今後の事業進捗に合わせた形での再開発利用
マリンレジャー機能	ヨットハーバー	・大津緑洋高校水産キャンパス前に浮棧橋の整備 ・ホイスト、陸揚場の整備 ・海岸線一帯の再開発利用（クラブハウスや売店の整備、海洋産業や水産キャンパスとの連携等）
その他	展望デッキ	・漁港風情を感じさせる出入船の眺望が可能なもの ・観光汽船の建物を含めての整備（屋上を展望デッキに）

	さわやか海岸の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインドサーフィン基地化 ・年間を通じての砂浜の利用 ・海水浴場としての認定 ・夕日が沈むスポットを活用したプロジェクトの推進
	家族釣り	<ul style="list-style-type: none"> ・人工島におけるトイレの改修 ・ごみ対策の充実・強化
	観光汽船との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・観光汽船と一体となった、コース・プランの造成、施設活用
	青海島の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・青海湖や深川湾の景観を活用したプロジェクトの推進 ・青海島共和国やNPO 法人くじらと島想いと連携したプロジェクトの推進

ウ 整備・管理運営の手法

ウォーターフロントの整備については、まず、直売所の周辺整備とし、ベイサイドデッキと直売所の一体的な整備を望みます。

なお、整備・管理運営については、広く民間事業者と提携するなかで、検討を進めることとします。

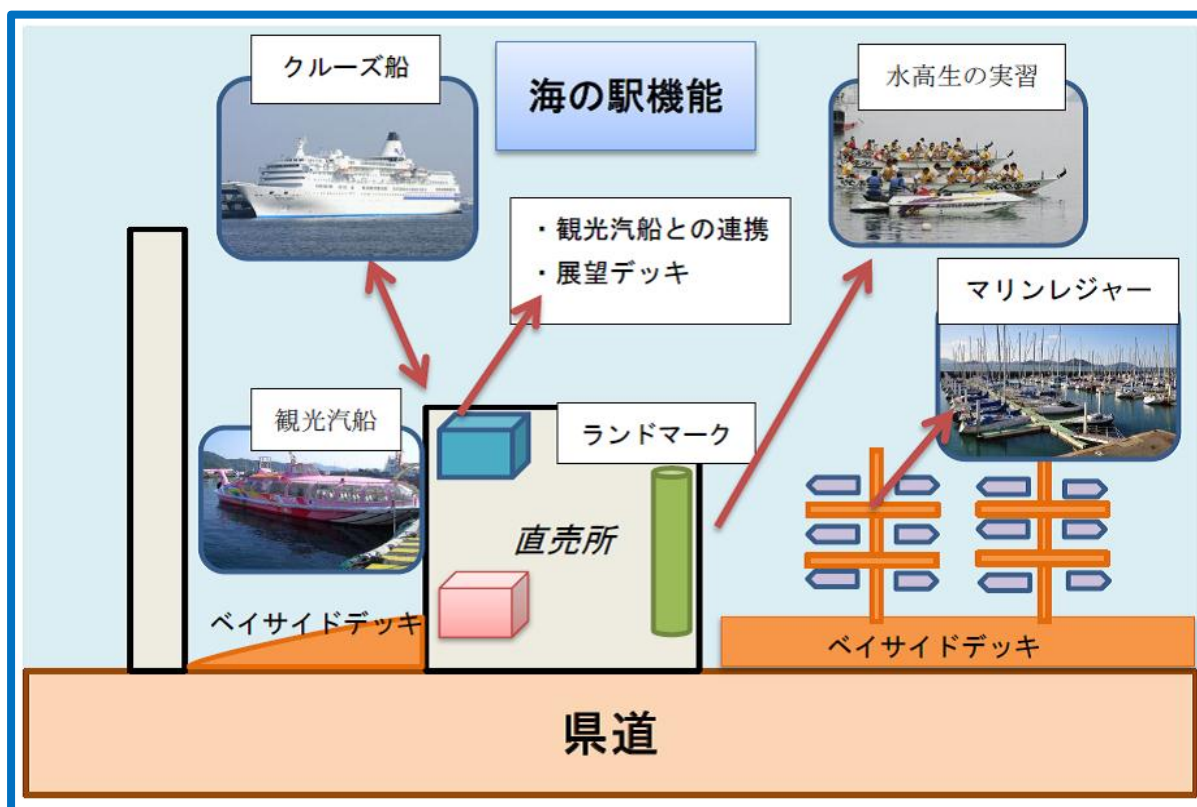
エ 活性化の方策

- ・観光汽船や海洋産業等と提携し、海、陸両方の通り一帯の活性化を図ります。
- ・ヨットフェスタなどマリンスポーツ等のイベント・教室を充実、強化します。

ウォーターフロント整備プラン イメージ図



配置イメージ図



(3) まちなみ整備プラン

ア 整備の目的

観光産業等と連携した交流人口の拡大

ゆっくり散策いただけるようレトロな店構えのレストランやカフェ、土産物などの店舗や趣のあるまちなみの環境整備を行うとともに、市民のあいさつ、案内を含む「おもてなし」を向上し、仙崎に来られたお客様に、安らぎと満足感・充実感を感じてもらい、「もう一度来てみたい」と思っただけのことを目指します。

イ 整備の概要

みすゞさんの「ものに対する目線」を、金子みすゞ記念館だけにとどめず、大正・昭和前期の風情を残すまちなみや人の生活から感じてもらうため、仙崎一帯を散策する回遊性をもたせた整備とします。

導入機能	導入施設等	整備配置方針
金子みすゞさんの時代を体験できる機能	ARアプリの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・みすゞ通りで金子みすゞさんの時代の画像や動画を見ることができるスマホアプリの開発 ・記念館周辺でレトロ風景再現のためハード整備
散策機能	ウォークルート	<ul style="list-style-type: none"> ・観光基地から歩いて散策する空間づくり ・みすゞ通りの外観の統一 ・散策ルートの設定 (例：天皇陛下の歌碑、大津あきらの歌碑、仙崎八景めぐり など) ・案内表示の徹底と明確化 ・レンタサイクルの設置 ・サイクルマップの作成
休憩機能	ベンチ	・みすゞ通りにおける休憩ベンチの整備
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・休息場所及び憩いの場所としてのポケットパークの整備 ・みすゞブロンズ像の設置
	公衆トイレ	・まちなみ散策者に向けたトイレの整備
文化交流機能	大津あきら記念館	・作詞家大津あきらさんに係る品の展示施設の整備 (空き家改修等)

	みすゞ図書館 【みすゞミュージアム】	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能、書籍販売機能、カフェ機能及びラボ機能を備えた、金子みすゞさんに関わる絵画、書、制作物等の展示施設の整備 ・みすゞさんと同時代の童謡詩人の作品の展示
歴史伝承機能	海外引揚資料館	・戦後海外からの引揚地であるゆかりの地付近における資料館の整備
	近代捕鯨資料館	・近代捕鯨発祥地としての資料館の整備
空地活用機能	駐車場	・空地を利用した駐車場の整備（町内等）
	公園（再掲）	・休憩機能や地元のコミュニティの場として公園の整備
空き家 空き店舗 活用機能	新規起業者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き店舗を活用した、新たな起業への支援 ・昔の商店街の再構築
その他	「童謡のまち」宣言と童謡喫茶店の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・「童謡のまち」宣言 ・音楽の先生、歌手等の支援による童謡を歌う喫茶店の整備
	青海島マラソン大会の開催	・新たなコース設定によるマラソン大会の開催 （例：旧青海島小学校⇒高山⇒青海島キャンプ場⇒通⇒大日比⇒旧青海島小学校）
	高山登山道の整備	・初日の出やハイキングのコース設定とそのルートの整備
	青海島自然研究路の再整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・青海島自然研究路の再整備 ・同研究路の有効活用

ウ 整備・管理運営の手法

まちなみ整備についても、直売所、ウォーターフロントとの連動した一体的な整備とし、合わせて、仙崎のまちなみを回遊しやすくするシステムづくりを望みます。

個々の整備については、行政と市民との協働による取組が必要となることから、学生などのアイデアも活用しながら、関係者と十分な調整を行い、広く民間事業者との提携を図るなかで、推進します。

エ 活性化の方策

- ・民間の事業者や新規起業者に、空き家、空き店舗の活用支援を行い、みすゞ通りの活性化を推進します。
- ・地区住民と多様な団体、企業等との提携によるみすゞ通りの魅力向上を図ります。

イメージ図



7 個別プロジェクト実現への取組

この基本構想は、委員から、長門市の未来のため、地域活性化に向けた起爆剤となる様々な意見、アイデアが出され、それらを集約反映させたものです。

「直売所・ウォーターフロント・まちなみ」整備プラン、その個別プロジェクトの実現に向けては、市における農業・水産・商工・観光施策との連携、観光コンベンション協会など各種団体との連携が必要であり、また、新たなまちづくり資源として、市民や事業者が有している知識や技術を活用するための仕組みを構築するなど、協働して「チームながと」でその推進に努めていかなければなりません。

よって、この基本構想の更なる充実・進化・実現に向けて、次の取組を要望します。

○ 推進体制の構築

市民、事業者、関係団体及び市が協働し、個別のプロジェクト推進のため、課題解決等の方策を検討する推進体制の構築が必要です。

○ 整備手法の確立

多くの市民の意見や関係者等の意見を聴取し、また、市民や事業者が有している知識や技術を持ち寄り、個別プロジェクトに合った整備手法の確立が必要です。

○ 基本構想の見直し

この基本構想のプロジェクトは、長期のプランが求められます。

このため、今回を契機に、状況変化に応じた基本構想の見直しを継続していくことが必要です。

8 策定の経緯

回	期 日	内 容
第 1 回	平成 26 年 5 月 7 日	ワークショップ 「仙崎地区が長門市の交流拠点になりうるか」
第 2 回	平成 26 年 6 月 9 日	ワークショップ 「仙崎に必要なものは」 ・直売所プラン ・ウォーターフロント構想 ・仙崎まちなみ整備プラン
	平成 26 年 6 月 20 日	第 1 回プロジェクトチーム会議 ・第 2 回委員会の取りまとめ・イメージ案の作成
第 3 回	平成 26 年 8 月 6 日	・イメージ案の提案 ・課題の検討（直売所・ウォーターフロント構想）
第 4 回	平成 26 年 8 月 22 日	・コンセプトの設定 ・課題の検討（仙崎まちなみ整備プラン）
	平成 26 年 9 月 4 日	道の駅視察 ・周南市「ソレーネ周南」
	平成 26 年 9 月 5 日	第 2 回プロジェクトチーム会議 ・基本構想案の作成
第 5 回	平成 26 年 9 月 11 日	・基本構想（案）について
	平成 26 年 9 月 18 日	第 3 回プロジェクトチーム会議 ・基本構想の修正
第 6 回	平成 26 年 9 月 29 日	・基本構想（案）報告
	平成 26 年 9 月 30 日	市長への基本構想の提出

9 整備スケジュール

ながと成長戦略行動計画の工程表（抜粋）

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
地元直売所の 整備	→			
	→		→	
	仙崎ランドデザインの作成、基本計画	水産物直売実証実験 店舗の運営 基本設計・実施設計	建設工事着手	→
				直売所オープン

※ ウォーターフロント整備、まちなみ整備は基本計画において整備スケジュールを策定します。

仙崎地区ランドデザイン基本構想策定委員会 委員名簿

番号	団体名等	氏名	備考	プロジェクトチーム
1	JA 長門大津農業協同組合	坂本 和義		
2	深川養鶏農業協同組合	末永 剛士		
3	山口県漁協長門統括支店	中田 朋之		
4	長門市観光コンベンション協会	新谷 勇		
5	長門商工会議所	三好 芳郁	副委員長	リーダー
6	ながと大津商工会	福田竜太郎		
7	仙崎発展促進協議会	藤田 秀人	委員長	
8	仙崎地区自治会長会	大井 克一		○
9	仙崎婦人会	深本 康子		
10	NPO 法人 くじらと島想い	山田 晋太		
11	湯本温泉旅館協同組合	伊藤 就一		○
12	長門料飲組合	青村 雅子		○
13	仲買組合（仙水協）	早川 修		○
14	農産物出荷者協議会	山田 和代		
15	ショップ青海島	藤本 敦士		
16	青年会議所	前川 佳賢		
17	消費者・女性層	釘物 優子		○
18	消費者・女性層	河本 清美		

10 資料編

(1) 長門市の人口、高齢化の推移

国勢調査

(単位:人)

年	人口	15歳未満 (全体に占める割合)	15～64歳 (全体に占める割合)	《うち15歳～29歳 (全体に占める割合)》	65歳以上 (全体に占める割合)
平成12年	43,473	5,524 (12.7%)	25,686 (59.1%)	5,980 (13.8%)	12,263 (28.2%)
平成17年	41,127	4,649 (11.3%)	23,486 (57.1%)	5,009 (12.2%)	12,992 (31.6%)
平成22年	38,349	4,064 (10.6%)	21,005 (54.8%)	3,970 (10.4%)	13,249 (34.6%)
平成22年の 平成17年比較 人口増減/増減率	△2,778 △6.8%	△585 △12.6%	△2,481 △10.6%	△1,039 △20.7%	257 2.0%

※ 平成22年人口には、年齢不詳31人が加わる。

年齢不詳は、平成12年及び17年においては0人

(2) 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(平成25年3月27日発表)

年	人口	15歳未満 (全体に占める割合)	15～64歳 (全体に占める割合)	65歳以上 (全体に占める割合)
平成22年 (2010年)	38,349	4,064 (10.6%)	21,005 (54.8%)	13,249 (34.6%)
平成32年 (2020年)	32,686	3,049 (9.3%)	15,450 (47.3%)	14,187 (43.4%)
平成42年 (2030年)	27,185	2,284 (8.4%)	12,631 (46.5%)	12,270 (45.1%)
平成52年 (2040年)	22,087	1,860 (8.4%)	10,143 (45.9%)	10,084 (45.7%)
平成52年の 平成22年比較 人口増減/増減率	△16,262 △42.4%	△2,204 △54.2%	△10,862 △51.7%	△3,165 △23.9%

(3) 日本創成会議「消滅可能性都市」

「20～39歳女性」の将来推計人口

(平成26年5月8日発表)

区分	2010年 総人口	2010年 20-39歳女性	2040年 総人口	2040年 20-39歳女性	若年女性人口 変化率 (2010→2040)
長門市	38,349	3,232	20,378	1,206	△62.7%

※ 大都市圏に人口移動が収束しない場合

(4) 産業別就業者数

国勢調査

(単位：人)

年	第1次産業 就業者数	第2次産業 就業者数	第3次産業 就業者数	計
平成2年	5,839	6,476	12,958	25,285
平成7年	5,038	6,556	13,075	24,673
平成12年	4,127	6,040	12,781	22,948
平成17年	3,591	5,242	12,478	21,353
平成22年	2,741	4,280	11,337	18,430

※ 「計」欄は、平成17年「分類不能42人」平成22年「分類不能74人」を加えた数値

(5) 産業別生産額

市町民経済計算

(単位：百万円)

年	農業	漁業	製造業	建設業	卸小売業	不動産業	サービス業
平成10年	4,748	4,784	18,896	17,410	10,103	12,594	23,024
平成12年	4,346	4,611	17,013	15,581	9,804	13,502	30,152
平成15年	3,556	3,623	16,940	11,205	9,712	13,302	28,183
平成17年	2,883	3,528	22,157	10,630	9,752	13,138	29,325
平成20年	2,691	3,376	21,702	7,126	8,326	13,603	29,392
平成22年	2,766	2,778	16,522	5,856	8,886	14,540	23,259

(6) 県内水産加工品生産量等

年次	山口県					長門市		
	やき ちくわ	かまぼこ 類	素干し 品	塩辛 品	煮干し品	食料品		
	単位 t	単位 t	単位 t	単位 t	単位 t	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
						箇所	人	万円
平成10年	19,027	28,120	761	5,008	2,578	103	1,778	2,418,865
平成12年	13,950	27,871	534	4,636	1,809	98	1,558	2,082,654
平成15年	-	32,224	446	3,755	1,808	90	1,820	2,830,795
平成20年	-	34,823	359	3,628	1,739	75	1,565	2,944,320
平成22年	-	29,636	422	5,853	1,756	65	1,750	2,901,294
平成23年	-	31,101	368	5,132	1,524	58	1,455	2,509,183

* 「山口県」の欄は、中国四国農政局「山口農林水産統計年報」による県内水産加工品生産量より

* 「長門市」の欄は、県統計分析課「山口県の工業」による食料品事業所数等より（従業員4人以上）

(7) 仙崎漁港の水揚高の推移

漁業種類	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績
	数量 (t)	数量 (t)	数量 (t)	数量 (t)	数量 (t)
小型底曳網	482	415	413	382	308
まき網	2,254	1,856	1,466	647	814
船曳網	519	1,272	745	558	708
棒受・すくい網	2,087	2,935	2,328	1,608	1,304
しいら網	61	30	0	0	0
やずまき刺網	124	114	110	126	147
沖建網	445	446	285	310	263
定置網	768	753	630	778	808
延 縄	49	39	40	46	35
いか一本釣	477	566	517	489	336
其の他一本釣	540	434	313	364	228
採貝藻	236	231	240	213	287
その他漁業	313	315	278	284	249
県外イカ釣	641	563	475	308	326
陸 送	184	159	192	159	166
自港合計	9,180	10,128	8,032	6,272	5,979

(8) 観光客数（実人員）

観光客動態調査

（単位：千人）

年	総数	宿泊客	県外客	県内客
平成 17 年	1,241	614	800	441
平成 18 年	1,195	571	770	425
平成 19 年	1,229	555	795	434
平成 20 年	1,194	553	786	408
平成 21 年	1,163	465	709	454
平成 22 年	1,146	507	690	456
平成 23 年	1,216	537	773	443
平成 24 年	1,188	513	731	457
平成 25 年	1,141	497	666	475

(9) 市内主要観光地の観光客数（延人員）

（単位：人）

区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
青海島（観光船・くじら資料館等）	312,744	281,537	241,218	217,395	220,941	197,643	157,435
金子みすゞ記念館	119,522	111,017	101,046	87,817	144,419	135,138	97,450
湯本温泉	625,142	619,846	525,508	534,660	584,002	560,776	529,413
俵山温泉	223,910	221,415	205,344	232,611	219,666	205,008	225,305
湯免温泉	79,385	74,543	69,451	64,647	66,965	74,915	71,426
黄波戸・油谷湾温泉	91,142	74,077	67,895	64,686	55,392	54,487	53,056
千畳敷	40,300	49,200	51,000	48,363	48,870	49,023	53,928

（観光客動態調査）

(10) 仙崎地区の人口動態

（単位：人）

		H17年4月	H20年4月	H23年4月	H26年4月	H26とH17との比較
仙崎地区	世帯数	2,104	2,094	2,053	2,058	97.81%
	男	2,517	2,340	2,195	2,118	84.15%
	女	2,923	2,755	2,638	2,560	87.58%
	合計	5,440	5,095	4,833	4,678	85.99%
長門市	世帯数	16,431	16,658	16,595	16,317	99.31%
	男	19,655	18,742	17,974	17,136	87.18%
	女	22,953	22,072	21,145	19,983	87.06%
	合計	42,608	40,814	39,119	37,119	87.12%

（外国人を含む住民基本台帳上の人口移動状況）

(11) 策定委員会の意見

《第1回策定委員会のワークショップでの意見》

【仙崎の現状は？】

- ・仙崎は昔から観光の拠点、水産の拠点として認知されている。
- ・人口が少なくなっている。家が少なくなって、空き地、空き家が多くなっている。
- ・リーダーシップをとる人間が不足している。
- ・人では、仙崎にしかないものは、金子みすゞと、うでのいい漁師である。
物では、観光船、金子みすゞ記念館、水産物を含む海洋資源である。
土地では、三方が海に開かれている土地、のんびりした土地、北の端の土地である。
- ・仙崎中学校出身者を中心に「仙崎愛好会」の会員は、約 1,000 人もいて繋がりが深い。
- ・ショップ青海島は、唯一、人が集まる場所である。
- ・「萩しーまーと」と「角島」にはさまれて、ながとは素通りになっているのではないか。

【仙崎の課題は？】

- ・交通のアクセスを良くして、駐車場を増やしてほしい。
- ・食べる場所を増やしてほしい。
- ・土産物の店、みすゞ関係の土産をもっと増やしてほしい。
- ・魚ブランドの全国に向けてPR、情報発信を充実して行ってほしい。
- ・みすゞ通り（まちなみ）の空地利用を考えてほしい。
- ・仙崎かまぼこの復活を図ってほしい。
- ・漁港は整備されているが、防災の拠点となるものがない。
- ・公民館が老朽化している。みんなが入れる施設が必要である。

《コンセプトを検討した際の委員会からの意見》

・長門市の方言として、「じょうに」の活用

いわゆる「たくさん」という意味で使われます。「ここ仙崎には、「じょうに」魚が水揚げされるよ」、「じょうに」豊かな自然、景観があるよ」、「人情あふれる人たちが「じょうに」いるよ」、など。何らかの形でこの方言「じょうに」を使ってほしい。

また、「じ」の左に「、」をつけると、漢字「心」にもなる。「じょうに」の「じょう」は、「情」とも通じる。

そんな、遊び心も抱ける方言を、是非何らかの形で活用をお願いいたします。

- ・このほかにも「ごっぼう」「・・・しちよる」などの方言があり、方言の活用を是非ご検討ください。

(12) 仙崎地区年表

年月	項目 (S29~H10)	年月	項目 (H11~H25)
S29(54) 3	4町村合併(通/仙崎/深川/俵山)	H11(98) 8	みすゞ七夕笹祭り、50年振り復活
S30(55) 11	「青海島」北長門海岸国定公園に指定	H12(98) 3	「ルネッサながと」完成
S33(58) 5	青海島鳥瞰路完成	H13(01) 3	みすゞ通り舗装改良完了
S34(59) 6	仙崎駅新駅舎完成 (S8.8仙崎線実現)	4	映画「みすゞ」ロケ
S38(63) 9	山口国体で水産高校ボート部優勝	8	世界陸上エドモントン大会男子マラソンで油谷繁選手5位入賞
S39(64) 9	高松宮様、青海島第1展望台を「碧濤台」と命名	H14(02) 3	日本伝統捕鯨地域サミット開催
S40(65) 9	住友セメント㈱ベルトコンベアー完成	H15(03) 4	金子みすゞ記念館閉館(生誕100年祭)
10	青海大橋完成	5	全国シニアソフトボール大会開催「仙崎みすゞチーム」優勝
S41(66) 3	仙崎渡船廃止	6	漁協合併「山口ながと漁業協同組合」発足
8	錦町にて大火。全焼12棟10世帯	8	世界陸上パリ大会男子マラソンで油谷繁選手5位入賞
S42(67) 3	仙崎下水処理施設完成	H16(04) 8	アテネオリンピック男子マラソンで油谷繁選手5位入賞
5	仙崎公民館完成	H17(05) 3	1市3町合併(長門/三隅/日置/油谷)
S43(68)	東山魁夷画伯が、皇居宮殿・長和殿に青海島瀬叢をモチーフにした壁画『朝焼けの潮』を制作	8	県単一漁協「山口県漁業協同組合」発足
7	県道青海島線「大泊・静ヶ浦」間開通	H18(06) 3	青海島小学校閉校(M18瀬戸崎小分校)
S44(69) 6	仙崎漁協たい観覧施設が紫津浦に完成	7	「海岸清掃の日」を制定
	(注 S34はまち養殖、S39たい養殖を開始。S55レストラン「紫津浦」オープン。H17年度で養殖事業終了)	11	国民文化祭2006の開催(M20000も実施)
S45(70) 3	仙崎中学校新校舎完成	H19(07) 3	青海島児童館閉館
12	「青い海、緑と太陽の街」都市宣言	4	大津あきら没後10年追悼「朗読劇」
S45(70) 1	仙崎漁協事務所及び魚市場完成	7	JR「みすゞ潮彩」運行
S51(76) 5	外海漁業栽培センター完成	12	日本近代捕鯨発祥の地(ニッスイ)の案内板設置
S54(79) 9	仙崎小に夜間照明設備完成	H20(08) 2	国道191「萩・三隅道路」開通
S55(80) 6	都市計画道路「白濁緑ヶ丘線」開通	4	長門市総合公園完成・全面供用開始
7	通渡船廃止	4	旧青海島小を地域の交流拠点に「青海島共和国」建国
S56(81) 3	紫津浦養殖場海水導入トンネル完成	H21(09) 11	水産高校創立70周年記念式典
S61(85) 2	仙崎小学校新校舎完成	H22(10) 1	笑顔写真モザイクアートギネス認定
S62(87) 6	青海大橋にクレーン船衝突	4	水産高校共同実習船「海友丸」新造
	県道仙崎停車場小浜線開通	7~	仙崎トロアじ7月、仙崎ふとイカ9月中旬宣言
H1(89) 3	青海島「桜の里」完成	H23(11) 3	仙崎イカ「仙丸くん」の巨大サイロお披露目
10	NHK「和っこの金メダル」放映開始	4	(社)観光コンベンション協会設立
H2(90) 4	金子みすゞの童謡を「ふるさとメロディー」に制定	4	キャンパス方式で大津緑洋高校開校
H3(91) 9	台風19号が長門市を縦断	5	みすゞ記念館入館者100万人に突破
5	「新町通り」を「みすゞ通り」と命名	H24(12) 4	「プロジェクトM20000」リニューアル
H4(92) 10	青海島観光基地完成	7	仙崎地方卸売市場の新市場供用開始
H6(94) 9	県道仙崎停車場小浜線白濁トンネル開通、みすゞ公園完成	11	見る方向で3種の絵となるモザイク画完成
11	第14回全国豊かな海づくり大会開催「思いやる ところが育てる 青い海」	H25(13) 3	詩札リニューアル
H7(95) 9	海外引揚50周年記念行事開催	12	アンテナショップ「海幸仙崎」オープン
H8(96) 4	青海島「高山オートキャンプ場」「船越ミニビジターセンター」オープン	H26(14) 4	「ばしふいっくびいなす」入港
H9(97) 7	「さわやか海岸」完成	7	青海島観光汽船に初の女性船長
H10(98) 11	ねんりんピックソフトボールの部「仙崎みすゞ」チーム優勝	8	やきとリンピック開催

(13) 直販施設に係る参考資料

■1 県内における農水産物の直販施設

駅名	あさひ	長門峡	おふく	萩シーマート	北浦街道豊北
設置者	萩市	山口市	美祢市	ふるさと萩食品 協同組合	下関市
運営者	(株)旭開発	山口市	美祢観光 開発(株)	ふるさと萩食品 協同組合	道の駅豊北 共同企業体
設置方法	一体型	一体型	一体型	単独型	単独型
利用者	県外 2 割 県内 8 割	県外 3.5 割 県内 6.5 割	市外 5 割 市内 5 割	県外 2 割 県内 8 割	県外 7 割 県内 3 割
施設概要	特産品販売所 レストラン 公園 ふれあい広場	特産品販売所 農産物直売所 レストラン 公園 加工場 野外ステージ	特産品販売所 農産物直売所 レストラン 温泉保養施設 特産品加工場	特産品販売所 レストラン 公園 子供広場 ウッドテラス 多目的スペース スタジオキッチン	地域物産品販売所 飲食物提供施設 交流広場
事業運営	平成 7 年登録 指定管理 旧旭村 90% 出資 売上 農産物特産品 5 割 野菜出荷農家 100 人	山口市が直営 駅長嘱託職員 テナント農協 レストラン 「聴秋」 ふれあい市 40 軒の出荷	平成 8 年 3 セク 指定管理 美祢市 3 分の 2 出資 社長 副市長 売上 2.2 億/年 生産者 80 人	協同組合運営 新南郷市場を参考 17 店舗 (新規無) 地元客を対象とし た公設市場 来客の 6 割が市内 この店しかないので アイテムが 300 市役所職員の出向	4 社の共同体 (株)道の駅豊北が全 体を総括、物販部 門を(株)道の駅豊 北、レストラン部 門を(株)ユニコン、 店舗施設管理を(株) ブランドウ、営業 企画をインブ(株) 出荷組織は、出荷 者協議会、角島漁 協、県漁協、下関 商工会
課題	萩小郡道路一 部開通により 利用者が激減	トラック運轉 手の仮眠場所 阿東地域窓口	小郡萩道路一 部開通により 1 割減 温泉 10 万人/年 (当初 20 万人)	定住人口の減 少による地域 マーケットの 緩やかな縮小 施設・設備の 経年劣化 若手人材の育成	冬場の集客対 策 道路情報の発 信機能の充実 自社ブランド 商品の造成

注 出展 (公財) ちゅうごく産業創造センター 平成 25 年 3 月策定

「中国地域における『道の駅』の地域振興に果たす役割及び防災拠点化活用調査」より

■2 市内における直販施設

- 1 百円市場
- 2 A コープ産直市
- 3 ウェーブ「ええもん市」
- 4 まるごと長門「旬」市場
- 5 水産物アンテナショップ「海幸仙崎」
- 6 地域のスーパー等

■3 市内における特産品・土産物販売所

- (1) ショップ青海島
- (2) 海鮮村北長門
- (3) かまぼこなど水産物加工業者等
- (4) 旅館・ホテル内店舗

■4 これまでの直販施設構想

- (1) **ながと地域再生戦略会議（H22、長門市）**

ア 農産物等直売施設整備事業

23 年度一般会計予算案のうち、農産物等直販施設の基本設計・実施設計等の予算を削除し実証実験に係る予算を計上した予算案を承認（23 年 3 月議会）

◆議員の主な意見

農産物等直売所が地域農業の再生につながるか、疑問であること。

コンセプト及び設置場所等の検討が不十分なこと。（板持地域に設置）

誰が運営するか、運営主体が未決定のまま進めていること。

生産者、小売、仲買及び直売所運営者とのコンセンサスが不十分なこと。

建設後の赤字運営等の財政的問題への不安があること。

板持に実証実験の旬市場を開設（26 年 4 月から国道と近松みすゞ道路分岐点に）

イ 水産加工施設整備事業

アジスキんレスフィーレをメイン事業とし、チルド室の整備とフィーレマシンの設置を主な事業（22 年 12 月）とする。

しかし、その後（23 年 1 月）、事業主体の漁協が、新市場建設と第 2 次中期経営計画（H23～26）を着実に進める必要があるためとの理由で、**事業実施を断念した。**

- (2) **湯本温泉活性化ビジョン（H25.2 湯本温泉活性化協議会）**

湯本温泉の核・交流拠点施設整備 駐車場、トイレ、休憩、情報の受発信スペース、市及び温泉街への案内、地元店舗テナント、直売所、市民の出店スペース、文化情報展示スペースなどを備えた交流拠点施設

候補地が旧堂上福永の地点で、道路構造上の問題点もあって、**提案に留まり進まず。**

(14) ウォーターフロントに係る参考資料

■1 市外におけるウォーターフロント

- 1 福岡ベイサイド
- 2 唐戸カモンワープ
- 3 角島大橋

■2 市内におけるウォーターフロント

- 1 青海島シーサイドスクエア
栈橋、観光船乗り場、海上保安部巡視船、ショップ青海島
- 2 さわやか海岸
砂浜、デッキ
- 3 船越海岸
キャンプ施設、スキューバダイビング体験、海水浴、自然遊歩道
- 4 只の浜海水浴場
砂浜、レストラン、海水浴
- 5 小島フィッシャーアリーナ
ヨット係留施設
- 6 YY ビーチ
キャンプ施設、カヌー施設
- 7 大浜海水浴場
サーフィン、砂浜、海水浴
- 8 海上レストラン「紫津浦」（閉鎖）
鯛の養殖、釣り堀

■3 これまでの市の計画における「ウォーターフロント構想」

1 長門市観光基本計画「青海島マリンパークの事業」（長門市、H13）

- ① 青海島観光船の整備（民間 高速艇、食事つきクルーズなど）
- ② 青海島エコ・ツーリズム（民間 ガイドつきツアーなど）
- ③ 青海島観光漁業（観光遊漁船、観光地引網など）
- ④ 青海島マリンスポーツ基地整備事業（ヨット、シーカヤック、ダイビングなど）
- ⑤ 青海島シーサイドスクエア改修事業（商業施設の改修（大型フードコートなど））
- ⑥ 仙崎漁港フリーマーケット事業（魚介類即売所、飲食施設など）
- ⑦ 青海島オートキャンプ場改善整備事業

(15) まちなみ整備に係る参考資料

■1 街並み整備事例

- 1 豊後高田市 「昭和の町」に変貌（商工会議所総務課参事 金谷俊樹）
「オンリーワンとなる街の個性が見つかれば、まちづくりは99%出来たのと一緒」
「古い歴史じゃなくても、僕たちが生まれ育った時代、商店街が一番輝いていた昭和30年代という歴史があるじゃないか。これこそオンリーワンの個性だ」
昭和30年代に関する300件もの情報を収集し、そのうち100件を選んで足を運ぶ。
平成13年9月、「昭和の店」9店舗と、街をガイドするご案内人1人でスタート。
現在40店舗。4つのキーワードを共有
①建築再生、②歴史再生（昭和のお宝展示1店1宝）、③商品再生（昭和の商品1店1品）、④商人再生（お客さんと心と心を交わす30年代のおもてなし）
本当のまちづくりはこれから。中心市街地を生活圏とする住民に帰ってきてもらうこと。例えば女房やお袋が晩ご飯の買い物で商店街を歩いていて、向こうから観光客が歩いていて、さりげなくすれ違う。もしこんな街が出来たら100年もつ街になる。
- 2 佐世保市 「きらきらフェスティバルの仕掛け」（させぼ四ヶ町商店街協同組合理事長 竹本慶三）
「イベントを重ねることによって、一番大切な人づくりが出来るんです」
毎年11月下旬からクリスマスにかけて、商店街をイルミネーションで彩る。
目玉イベントが12月初め、参加費1,000円で大忘年会
まちづくりの要は、市民が参加する仕組みを生み出すこと。
朝7時から会議。朝会議のルールは「出来ない」と言わないこと。
注 以上2件は、「好きなまちで挑戦し続ける」を参考に記述
経産省流通保安グループ中心市街地活性化化室発行 2013年発行

■2 みすゞ通り再生等に係るこれまでの意見

- 1 金子みすゞ記念館基本構想書「みすゞ回廊構想」（長門市教育委員会、H12）
金子みすゞの世界をより深く鑑賞するには、仙崎の街や自然の中を歩き、金子みすゞと同じような発見や感動を体験することこそ大切です。そこで、記念館の整備事業は、記念館建設だけにとどまらず、仙崎の街や仙崎の自然との連携整備も視野に入れて整備を進めていくこととします。
具体的には、金子みすゞ記念館は、金子みすゞの世界の鑑賞や発見の手助けをする中核施設として捉え、周辺に第2第3の関連資料館を建設したり、みすゞ通りを中心に町並み整備を行ったりすることで、将来にわたって次々に広がっていくよう計画します。つまり、開館時は完成ではなく、出発点です。開館後も永遠に成長していくことを基本として整備しておくことが大切です。
こうした考え方は、来館者の感動を、館内だけにとどめず、仙崎一帯を散策する回遊性をもたせるうえで有効です。
街全体を金子みすゞのミュージアムにしようとする、この構想を「みすゞ回廊」構想と称します。

- **第2第3の記念館・資料館構想**

将来にわたって、金子みすゞやその関連情報をテーマにした記念館をいくつも創ることを基本として整備します。

たとえば、将来みすゞ通りの別の場所で交流活動・創作活動を支援する施設を創ったり、また、仙崎の自然をテーマにした館を整備したりします。そして、それらとの連携利用により、みすゞの宇宙をさらに深く鑑賞できるようにします。

- **町並み整備事業**

みすゞ通りの店舗や民家 1 軒 1 軒の店先や軒先に、みすゞをテーマにした絵画や写真などを展示するよう呼びかけます。来訪者を楽しませるばかりか、地元の人々の作品発表の場としても役立ちます。

また、みすゞの愛した草花の種や苗を、各家庭で育てることを奨励し、街全体をみすゞ植物園にすることも目指します。

- **自然散策路整備事業**

全国から訪れるみすゞファンは、みすゞが愛した仙崎の自然を見ながら歩きたいと願っています。

そうした人々が楽しみながら仙崎の自然の中を歩けるよう、仙崎八景を中心に自然散策路としての整備を進めます。

2 長門市観光基本計画（長門市、H13）

- **青海島マリンパークの事業（再掲）**

- ① 青海島観光船の整備（民間 高速艇、食事つきクルーズなど）
- ② 青海島エコ・ツーリズム（民間 ガイドつきツアーなど）
- ③ 青海島観光漁業（観光遊漁船、観光地引網など）
- ④ 青海島マリンスポーツ基地整備事業（ヨット、シーカヤック、ダイビングなど）
- ⑤ 青海島シーサイドスクエア改修事業（商業施設の改修（大型フードコートなど））
- ⑥ 仙崎漁港フリーマーケット事業（魚介類即売所、飲食施設など）
- ⑦ 青海島オートキャンプ場改善整備事業

- **仙崎みすゞ観光ゾーン**

- ① 金子みすゞ記念館整備事業
- ② みすゞ通りのまちなみ整備事業（トイレ・休憩所の整備など）
- ③ 民家を活用した個性的な家並みづくり事業（かまぼこ博物館、大正ロマンを感じさせるカフェ・古本屋・駄菓子屋、ミニギャラリーなど）
- ④ 仙崎駅前観光案内所設置事業
- ⑤ 観光ボランティアガイドツアー

3 長門地区まちなみづくり検討会（長門市・長門土木建築事務所、H15・16）

- 誘導サイン・駐車場に関する意見
- まちなみ

「みすゞ通りならではの色合いを」「休憩所、食事処及び土産物屋が少ない」
「生活の場と観光の場との兼ね合いについての話し合いをもっとしていくべき」

4 仙崎地区のまちづくりに関する提言書（（社）県建築士会長門支部青年部 H21・22）
七つの提言（H21）

①景観の統一化、②誘導サインの充実、③空き家の有効活用、④蒲鉾工場を地域の顔に、⑤空き地の有効活用、⑥ボランティアガイドの充実、⑦建物の表示
仙崎ええとこ探検マップ作成（H22）（仙崎ならではの景観をイラスト化）

5 長門市総合計画基本構想の「まちづくりの重点戦略」（長門市、H18.12月）

ア 食の産業プロジェクト：農林水産業や商工業などの地域産業が連携することにより、新鮮な食材で安心・安全な食を提供します。また、「健康」をテーマにした特産品開発、郷土料理の創作を行い、地域ブランドを確立します。

イ 体験交流プロジェクト：健康保養のための温泉地づくりや温泉間の連携を強化し、自然体験や農林漁業体験のできるツーリズムの推進により、市民や観光客の心身が保養できるまちとしてPRし、観光産業の活性化を目指します。

ウ 資源循環プロジェクト：貴重な自然資源を保全するとともに、耕作放棄地の有効利用や風力、バイオマスなどの新エネルギー活用の推進により、地球環境にやさしい循環型社会を構築します。

エ 景観保全プロジェクト：美しい海岸、棚田、まちなみなどの景観を保全することにより、貴重な地域資源を次世代へ継承し、人々の心を癒す景観形成と魅力ある地域づくりを推進します。（仙崎みすゞ通りなど、文化資源と一体となったまちなみ景観の形成など）

6 長門市総合計画後期基本計画（長門市、H23）

ア 体験型観光の推進 体験型、学習型の観光ニーズに対応した様々な体験の場の充実を図るため、海や山などの地域資源の活用と活動の連携により、全市的な体験型観光への取組を推進します。（体験・交流型プログラムの充実など）

イ 滞在型観光の推進 「楽しむ」旅行から「癒される」旅行へと観光需要が変化する中で、週末は農山村地域でゆったりした時間を過ごすなど、様々な需要に対応した滞在機能の強化を推進します。（散策したくなるまちづくり、景観の創出など）

ウ 反復型観光の推進 「日本の心『やさしさ』を奏でるまち長門」の創造のために、幅広い関係者や市民とともに、取組を推進します。また、新たな観光ニーズに対応した情報発信やパンフレットづくり、参加体験型のイベント企画に取り組みます。（感動発信の情報網づくり、感動創造の体制づくりなど）

仙崎地区ランドデザイン基本構想策定委員会

事務局：長門市 経済観光部 成長戦略推進課

電話：0837-23-1267